

2027年国際園芸博覧会

環境影響評価準備書に関する補足資料

<補足資料内容>

- 8 動植物の予測地域について
- 9 全国都市緑化よこはまフェアでの生態系影響に関する知見について
- 10 囲繞景観の撮影範囲の追加について
- 11 囲繞景観の予測評価について

令和5年12月

8 動植物の予測地域について

ご意見の趣旨

本博覧会の実施により間接的影響を受けるおそれがあると認められる地域を予測対象にしているが、堀谷戸川の下流側ではホトケドジョウが確認されており、堀谷戸川の集水域については予測地域に含めるべきではないか。

大径木については、具体的に予測・評価し、保全措置を具体化すべき対象と考える。

事業者の見解

本博覧会は、横浜市の土地区画整理事業により改変された土地において実施することから、対象事業実施区域に隣接する瀬谷市民の森や対象事業実施区域内に創出される保全対象種の生息・生育環境等に対する間接的影響について予測・評価することとしました。

既存資料における現地調査結果（平成30年～令和元年）では、堀谷戸川の下流には注目すべき種であるホトケドジョウの生息が確認されており（図8-1参照）、生息環境が水域である本種は本博覧会による影響からの忌避行動が困難であることから、ご指摘を踏まえ、堀谷戸川の流域を含む「(3)樹林が点在する広大な草地」及び「(6)堀谷戸川左岸の耕作地域」を動物の予測地域として追加選定し（表8-1参照）、工事中、開催中及び撤去中におけるホトケドジョウへの影響について予測評価を行うこととしました（表8-2参照）。

また、既存資料における現地調査結果（平成30年～平成31年）では、対象事業実施区域内に大径木が確認されていますが（表8-5、図8-2参照）、本博覧会では大径木は植栽計画における重要な構成要素と考えているため、保全対象種に準じて取り扱うこととし、「(3)樹林が点在する広大な草地」を植物の予測地域として追加選定して、工事中、開催中及び撤去中における大径木への影響について予測・評価を行うこととしました（表8-3参照）。

この資料は、審査会用に作成したものです。審議の過程で変更される可能性があるため、取り扱いにご注意願います。

(1) 予測評価（動物）について

堀谷戸川の流域を含む「(3)樹林が点在する広大な草地」及び「(6)堀谷戸川左岸の耕作地域」を表8-1のとおり、動物の予測地域として追加選定し、工事中、開催中及び撤去中におけるホトケドジョウへの影響について、表8-2のとおり予測評価を行いました。

なお、準備書から修正した箇所は、太文字・下線で示しています。

表 8-1 予測地域

予測地域		予測時期		
		工事中	開催中	撤去中
対象事業実施区域内	(1)人工的土地利用域			
	(2)相沢川周辺の谷戸地域	○注2	○注2	○注2
	(3)樹林が点在する広大な草地	<u>○注4</u>	<u>○注4</u>	<u>○注4</u>
	(4)和泉川源流域	○注2	○注2	○注2
	(5)樹林が点在する耕作地域	注3		
	(6)堀谷戸川左岸の耕作地域	<u>○注4</u>	<u>○注4</u>	<u>○注4</u>
対象事業実施区域外 (区域の端部から約200mまでの範囲)	(7)住宅地域	○	○	○
	(8)樹林域	○	○	○

注1：○は、各予測項目に対する予測対象とした地域を示します。

空欄は、土地区画整理事業の実施によって予測対象の注目すべき種が存在しない可能性が高いと想定するため、間接的影響の予測対象から除外した地域を示します。

注2：相沢川周辺の谷戸地域及び和泉川源流域の範囲のうち、土地区画整理事業によって、動植物の生息・生育環境が整備・創出される範囲を対象としました。

注3：駐車場整備範囲に新たに配慮すべき動植物が定着しないよう、土地区画整理事業の工事完了後、速やかに着工し、工事完了後は時間を空けることなく直ちに使用開始しますが、これらの対応にも関わらず、配慮すべき動物の定着が確認された場合には、土地区画整理事業や公園整備事業と連携しながら、工事区域外への動物の避難経路の確保など、確認された動物に応じた対策について検討します。

注4：堀谷戸川の下流には注目される種であるホトケドジョウの生息が確認されており、生息環境が水域である本種は本博覧会による影響からの忌避行動が困難であることから、堀谷戸川の流域を予測地域として選定しました。

表 8-2 ホトケドジョウの予測及び環境保全措置等について

項目	工事中・撤去中	開催中									
予測項目	・準備書のとおり										
予測地域	<p>・表 8-1 に示すとおり予測地域を修正し、準備書本文 (p6. 2-114) に下記を追記します。</p> <p><u>堀谷戸川の下流には注目される種であるホトケドジョウの生息が確認されており、生息環境が水域である本種は本博覧会による影響からの忌避行動が困難であることから、堀谷戸川の流域を含む、樹林が点在する広大な草地及び堀谷戸川左岸の耕作地域の 2 地域を予測の対象としました。</u></p>										
予測時期	・準備書のとおり										
予測方法	<p>・準備書本文 (p6. 2-115) の①②③に下記を追記します。</p> <p><u>堀谷戸川の下流には注目される種であるホトケドジョウの生息が確認されており、生息環境が水域である本種は本博覧会による影響からの忌避行動が困難であることから、堀谷戸川の流域を含む地域について、雨水・汚水排水等に係る間接的影響の程度を定性的に予測しました。</u></p>										
予測条件	<p>・準備書本文 (p6. 2-116) に下記内容を追記します。</p> <p><u>堀谷戸川の下流には注目される種であるホトケドジョウの生息が確認されており、生息環境が水域である本種は本博覧会による影響からの忌避行動が困難であることから、堀谷戸川の流域を含む地域の雨水・汚水排水等に係る影響について配慮します。</u></p>										
予測結果	<p>・準備書 (p6. 2-122 「表 6. 2-36 注目すべき種の主な生息環境」) に下表を追記します。</p> <table border="1" data-bbox="279 1064 885 1272"> <thead> <tr> <th>主な生育環境</th> <th>区分</th> <th>注目すべき種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(3) 樹林が点在する広大な草地</td> <td>魚類</td> <td>なし (堀谷戸川の下流にホトケドジョウが生息)</td> </tr> <tr> <td>(6) 堀谷戸川左岸の耕作地域</td> <td>魚類</td> <td>なし (堀谷戸川の下流にホトケドジョウが生息)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・準備書本文 (p6. 2-123) に下記を追記します。</p> <p><u>エ 堀谷戸川の流域を含む地域</u> 堀谷戸川の下流には注目される種であるホトケドジョウの生息が確認されており、工事に伴う排水等については、堀谷戸川に流入しないよう、公共下水道に接続して適切に処理することから、ホトケドジョウなど動物相への影響は小さいと予測します。</p>	主な生育環境	区分	注目すべき種	(3) 樹林が点在する広大な草地	魚類	なし (堀谷戸川の下流にホトケドジョウが生息)	(6) 堀谷戸川左岸の耕作地域	魚類	なし (堀谷戸川の下流にホトケドジョウが生息)	<p>・準備書本文 (p6. 2-125) に下記を追記します。</p> <p><u>エ 堀谷戸川の流域を含む地域</u> 本博覧会では、展示植栽等への薬剤等の使用はできるだけ抑制するとともに、使用する場合には、魚毒性の低いものを選定します。 また、表土を保全し、園路や駐車場等には透水性舗装等の浸透・貯留施設を整備し、適切に維持管理を行うことで水源の涵養に努めることから、ホトケドジョウなど動物相への影響は小さいと予測します。</p>
主な生育環境	区分	注目すべき種									
(3) 樹林が点在する広大な草地	魚類	なし (堀谷戸川の下流にホトケドジョウが生息)									
(6) 堀谷戸川左岸の耕作地域	魚類	なし (堀谷戸川の下流にホトケドジョウが生息)									
環境の保全のための措置	<p>・準備書本文 (p6. 2-126) に下記を追記します。</p> <p><u>【堀谷戸川の流域を含む地域】</u></p> <p>・工事に伴う排水等については、堀谷戸川に流入しないよう、公共下水道に接続して適切に処理します。</p> <p>・配慮すべき動物の確認については、横浜市の土地区画整理事業が実施する事後調査において、工事期間中の生物多様性 (動物、植物、生態系) に関する調査を実施することになっており、同調査で得られた情報等も活用していきます。</p>	<p>・準備書本文 (p6. 2-128) に下記を追記します。</p> <p><u>【堀谷戸川の流域を含む地域】</u></p> <p>・本博覧会では、展示植栽等への薬剤等の使用はできるだけ抑制するとともに、使用する場合には、魚毒性の低いものを選定します。 また、表土を保全し、園路や駐車場等には透水性舗装等の浸透・貯留施設を整備し、適切に維持管理を行うことで水源の涵養に努めます。</p>									

(2) 予測評価（植物）について

「(3)樹林が点在する広大な草地」について、表8-3のとおり、植物の予測地域として追加選定し、工事中、開催中及び撤去中における大径木への影響について、表8-4のとおり予測評価を行いました。

なお、準備書から修正した箇所は、太文字・下線で示しています。

表 8-3 予測地域

予測地域		予測時期		
		工事中	開催中	撤去中
対象事業実施区域内	(1)人工的土地利用域			
	(2)相沢川周辺の谷戸地域	○注2	○注2	○注2
	(3)樹林が点在する広大な草地	<u>○注4</u>	<u>○注4</u>	<u>○注4</u>
	(4)和泉川源流域	○注2	○注2	○注2
	(5)樹林が点在する耕作地域	注3		
	(6)堀谷戸川左岸の耕作地域			
対象事業実施区域外 (区域の端部から約200mまでの範囲)	(7)住宅地域	—	—	—
	(8)樹林域	○	○	○

注1：○は、各予測項目に対する予測対象とした地域を示します。

—は、既存資料（土地区画整理事業）において、注目すべき種の生育が確認されなかったため、対象から除外した地域を示します。

空欄は、土地区画整理事業の実施によって予測対象の注目すべき種が存在しない可能性が高いと想定するため、間接的影響の予測対象から除外した地域を示します。なお対象事業実施区域内の人工的土地利用域、樹林が点在する広大な草地、樹林が点在する耕作地域、堀谷戸川左岸の耕作地域の4地域については、土地区画整理事業による造成に伴い、同事業の実施前の植物相は存在しない可能性が高いと想定するため、予測の対象外としました。

注2：谷戸地域及び和泉川源流域の範囲のうち、土地区画整理事業によって、動植物の生息・生育環境が整備・創出される範囲を対象としました。

注3：駐車場整備範囲に新たに配慮すべき動植物が定着しないよう、土地区画整理事業の工事完了後、速やかに着工し、工事完了後は時間を空けることなく直ちに使用開始しますが、これらの対応にも関わらず、配慮すべき植物の定着が確認された場合には、土地区画整理事業や公園整備事業と連携しながら、工事区域外への移植場所の確保など、確認された植物に応じた対策について検討します。

注4：大径木が確認されているため、予測地域として選定しました。

表 8-4 大径木の予測及び環境保全措置等について

項目	工事中・撤去中	開催中								
予測項目	<ul style="list-style-type: none"> 準備書本文 (p6. 3-37) を下記のとおり修正します。 <p><u>予測項目は、陸生植物の植物相、水生植物の植物相、大径木の変化の内容及びその程度としました。</u></p>									
予測地域	<ul style="list-style-type: none"> 表 8-4 に示すとおり予測地域を修正し、準備書本文 (p6. 3-37) に下記を追記します。 <p><u>対象事業実施区域内に大径木が確認されていますが、本博覧会において大径木は重要な構成要素であるため、保全対象種に準じて取り扱うこととし、樹林が点在する広大な草地を植物の予測地域として追加選定して、工事中、開催中及び撤去中における大径木への影響について予測・評価を行うこととしました。</u></p> <p><u>なお、対象事業実施区域内の人工的土地利用域、樹林が点在する耕作地域、堀谷戸川左岸の耕作地域の3地域については、土地区画整理事業による造成に伴い、同事業の実施前の植物は存在しない可能性が高いと想定するため、予測の対象外としました。</u></p>									
予測時期	<ul style="list-style-type: none"> 準備書のとおり 									
予測方法	<ul style="list-style-type: none"> 準備書本文 (p6. 3-38) の①、②、③に下記を追記します。 <p><u>①、③：大径木の本博覧会の工事に伴う間接的影響の程度を定性的に予測しました</u> <u>②：大径木の本博覧会の開催に伴う間接的影響の程度を定性的に予測しました。</u></p>									
予測条件	<ul style="list-style-type: none"> 準備書本文 (p6. 3-39) に下記を追記します。 <p><u>大径木については、本博覧会において大径木は植栽計画における重要な構成要素であるため、保全対象種に準じて取り扱うこととしました。</u></p>									
予測結果	<ul style="list-style-type: none"> 準備書本文 (p6. 3-40) について、下記のとおり修正します。 <p><u>人工的土地利用域、堀谷戸川左岸の耕作地域、住宅地域では注目すべき種の生育が確認されなかったため、予測対象から除外しました。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 準備書 (p6. 3-40 「表 6. 2-36 注目すべき種の主な生息環境」) に下表を追記します。 <table border="1" data-bbox="271 1249 842 1384"> <thead> <tr> <th colspan="2">主な生育環境</th> <th>区分</th> <th>注目すべき種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(3)</td> <td>樹林が点在する広大な草地</td> <td>維管束植物</td> <td>なし (大径木は保全対象種に準じて取り扱う)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 準備書本文 (p6. 3-41) に下記を追記します。 <p><u>エ 樹林が点在する広大な草地</u> <u>横浜市の公園整備事業において、利用可能な大径木を保存または移植して活用する計画であり、本博覧会においても保全・活用することから、大径木への影響は小さいと予測します。工事作業員や重機による大径木の根際の踏み固めが生じないように、大径木の周辺への立入りを制限するなど、作業員への周知徹底を図るため、大径木への影響は小さいと予測します。</u></p>	主な生育環境		区分	注目すべき種	(3)	樹林が点在する広大な草地	維管束植物	なし (大径木は保全対象種に準じて取り扱う)	<ul style="list-style-type: none"> 準備書本文 (p6. 3-42) に下記を追記します。 <p><u>エ 樹林が点在する広大な草地</u> <u>横浜市の公園整備事業において、利用可能な大径木を保存または移植して活用する計画であり、本博覧会においても横浜市と連携しながら適切な管理に努めることから、大径木への影響は小さいと予測します。</u></p>
主な生育環境		区分	注目すべき種							
(3)	樹林が点在する広大な草地	維管束植物	なし (大径木は保全対象種に準じて取り扱う)							
環境の保全のための措置	<ul style="list-style-type: none"> 準備書本文 (p6. 3-42) に下記を追記します。 <p>【樹林が点在する広大な草地】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>横浜市の公園整備事業において、利用可能な大径木を保存または移植して活用する計画であり、本博覧会においても保全・活用します。</u> <u>工事作業員や重機による根際の踏み固めが生じないように、大径木の周辺への立入りを制限するとともに、事前教育の実施などにより、作業員への周知徹底を図ります。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 準備書本文 (p6. 3-43) に下記を追記します。 <p>【樹林が点在する広大な草地】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>横浜市の公園整備事業において、利用可能な大径木を保存または移植して活用する計画であり、本博覧会においても横浜市と連携しながら適切な管理に努めます。なお、現存する草地環境 (乾性草地) の一部を保全して、広場として横浜市に継承します。</u> 								

この資料は、審査会用に作成したものです。審議の過程で変更される可能性があるため、取り扱いにご注意願います。

表 8-5 大径木確認状況の概要（準備書 6.3-21 より引用）

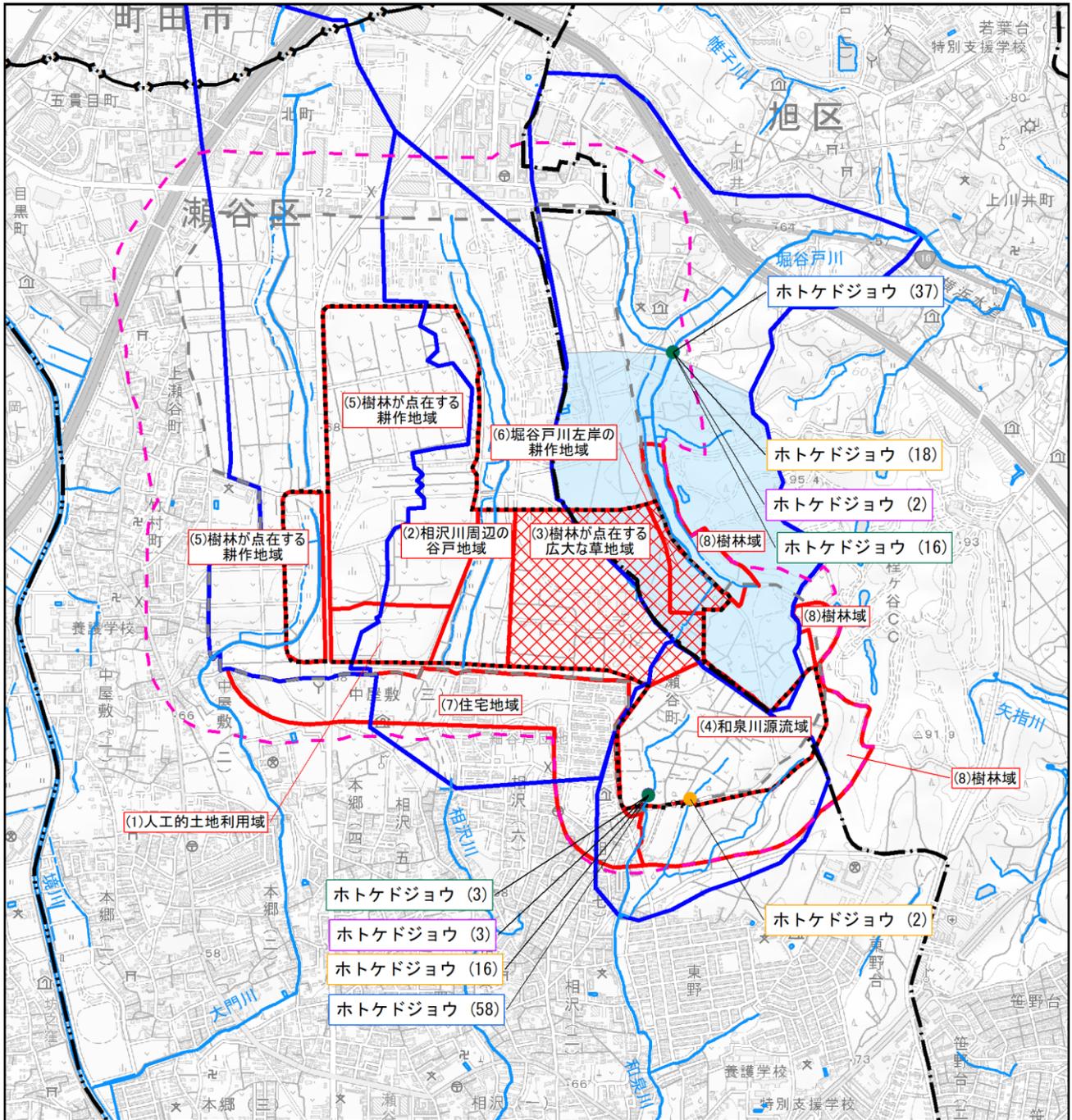
No.	種名	本数	
		対象事業実施区域内	対象事業実施区域外
1	ソメイヨシノ	4	467
2	サワラ	1	106
3	ヒマラヤスギ	2	58
4	マテバシイ	-	25
5	モミジバズカケノキ	3	7
6	ケヤキ	-	8
7	シラカシ	-	8
8	アカマツ	-	6
9	カイヅカイブキ	4	1
10	スダジイ	-	5
11	オオシマザクラ	-	3
12	クロガネモチ	-	3
13	タイサンボク	-	3
14	ミズキ	2	1
15	イロハモミジ	1	1
16	カラスザンショウ	-	2
17	カラマツ	-	2
18	クロマツ	-	2
19	シダレヤナギ	-	2
20	スギ	-	2
21	ハリギリ	-	2
22	イチイガシ	-	1
23	ウラジロモミ	-	1
24	エノキ	-	1
25	エンジュ	-	1
26	キリ	-	1
27	クヌギ	-	1
28	ドイツトウヒ	-	1
29	トウネズミモチ	-	1
30	ヒノキ	-	1
31	モミ	-	1

注 1：大径木定義は下記のとおりです。

平成 30 年度調査：「環境相自然環境保全基礎調査 巨樹巨木林調査」（環境省自然環境局 生物多様性センター）

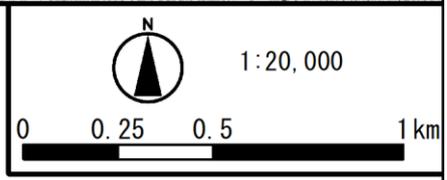
平成 31 年度調査：「平成 26 年度大径木再生指針 東京都建設局公園緑地部」（平成 26 年 7 月発行）

この資料は、審査会用に作成したものです。審議の過程で変更される可能性があるため、取り扱いにご注意願います。



- 凡例**
- 対象事業実施区域
 - 土地区画整理事業実施区域
 - 動植物調査範囲
 - 地域区分
 - 流域界
 - 堀谷戸川上流域
 - 新しく追加された予測地域
 - 夏季
 - 秋季
 - 冬季
 - 春季

- ↔ 都県界
- 市界
- 区界
- 河川

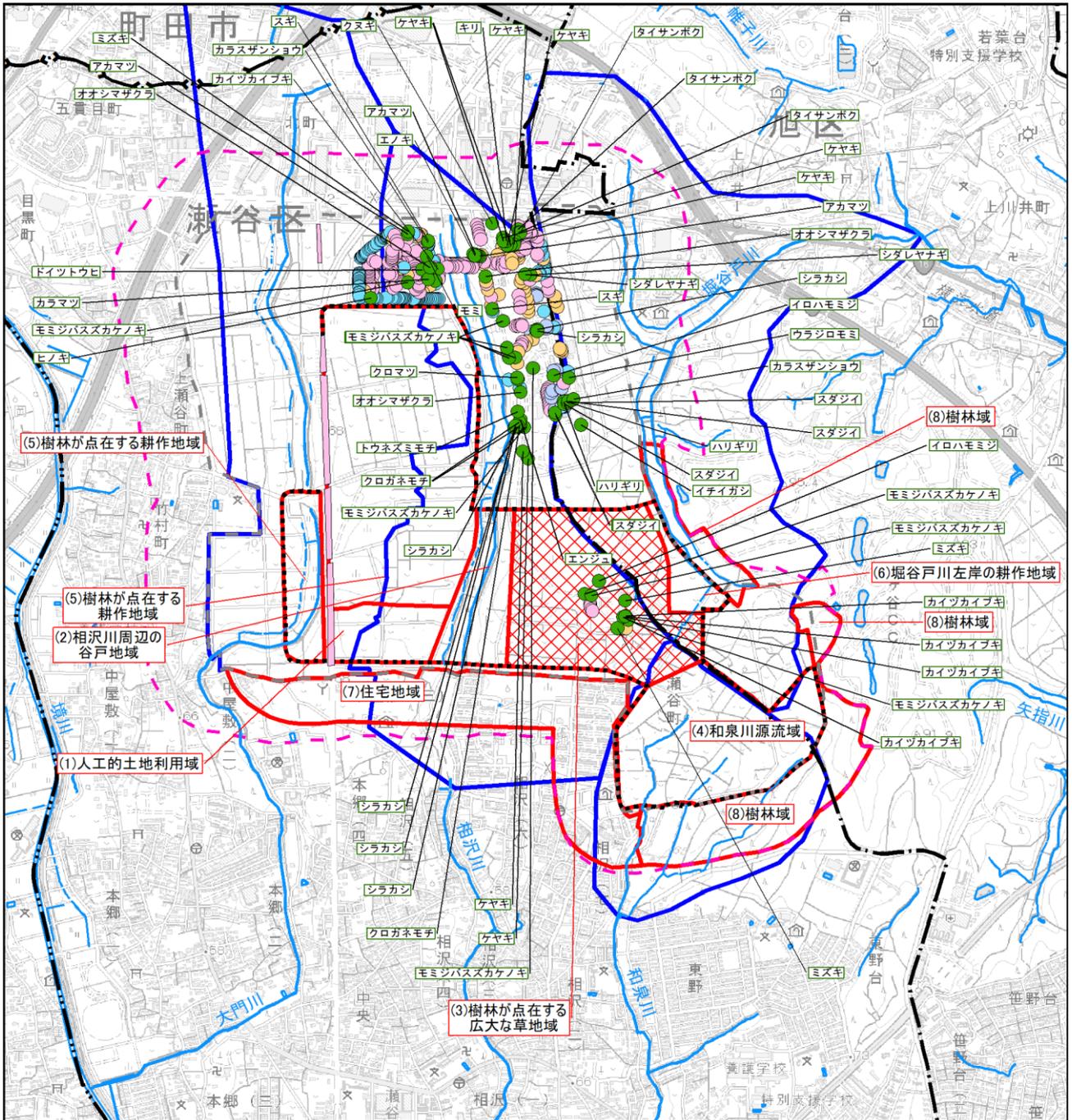


注：図中（ ）内の数字は確認個体数を示します。

調査時期：平成30年夏季～令和元年春季
 出典：(仮称)旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業 環境影響評価書 (令和4年1月、横浜市)

図8-1 ホトケドジョウの確認位置

この資料は、審査会用に作成したものです。審議の過程で変更される可能性があるため、取り扱いにご注意願います。



凡例

- 対象事業実施区域
- 土地区画整理事業実施区域
- 地域区分
- 河川
- 流域界
- 新しく追加された予測地域
- 都県界
- 市界
- 区界
- 動植物調査範囲

- 大径木
- モミジバズカケノキ
- ケヤキ
- シラカシ
- アカマツ
- カイツカイブキ
- スダジイ
- オオシマザクラ
- クロガネモチ
- タイサンボク
- ミズキ
- イロハモミジ
- カラスザンショウ
- カラマツ
- クロマツ
- シダレヤナギ
- スギ
- ハリギリ
- イチイガシ
- ウラジロモミ
- エノキ
- エンジュ
- キリ
- クヌギ
- ドイトウヒ
- トウネズミモチ
- ヒノキ
- モミ

- 大径木(ソメイヨシノ)
- 大径木(サワラ)
- 大径木(ヒマラヤスギ)
- 大径木(マテバシイ)

調査時期：平成30年夏季～平成31年度早春
 出典：(仮称) 旧上瀬谷通信施設公園整備事業環境影響評価準備書
 (令和5年3月、横浜市)

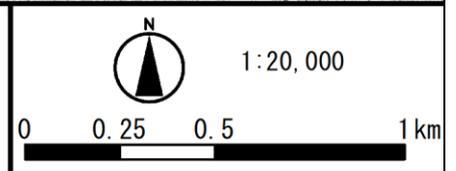


図8-2 大径木の確認位置

9 全国都市緑化よこはまフェアでの生態系影響に関する知見について

ご意見の趣旨

植栽地管理に関して、全国都市緑化フェアでは、ズーラシアの周辺で、同じように園芸的なイベントが実施されているが、そのときの生態系の影響に関する知見などについて収集しているのか。知見がある場合には、どのようなモニタリングで、どのような問題点が生じているのか伺いたい。

事業者の見解

2017年に開催された都市緑化フェアの開催時における、生態系に配慮した植栽地管理の詳細について、以下のとおり、改めて横浜市に確認しました。横浜市から確認した内容については、今後の博覧会の管理運営に生かしていきたいと考えます。

なお、都市緑化フェアとしての生態系の影響に関するモニタリングについては、実施していないと聞いています。

【整備にあたっての配慮】

- ・生物調査に基づいて、希少生物の生息・生育場所の改変をできるだけ行わないように配慮。
- ・谷戸の源流の一部を生物多様性ゾーンとして位置付け、生物多様性に配慮した整備（湿地環境の保全等）を実施。

【緑化フェア開催時（管理運営）の配慮】

- ・希少生物の生息・生育場所については、来場者の立ち入りを制限。
- ・生物多様性ゾーンにおいて、生物多様性に配慮した管理や手入れとして、外来植物を選択的に除去することなどを実施。
- ・昆虫等の生息情報をもとに、生息地の環境を考慮して、頻度、草丈等の調整をしながら草刈りを実施し、併せて農薬等の使用を原則禁止とした。

10 囲繞景観の撮影範囲の追加について

ご意見の趣旨

調査地点の背景に自然環境があることも、景観の予測に含まれると思います。囲繞景観の地点28と地点32については、360度方向を対象として予測してほしい。

事業者の見解

ご指摘を踏まえ、図10-1に示すとおり地点28と地点32のフォトモンタージュを作成しました。作成したフォトモンタージュは、「補足資料11 囲繞景観の予測評価について」において、「土地利用混在域」及び「大規模農地域」の予測評価の再検討に活用しました。

景観区ごとの開催中における利用の状態、眺めの状態の変化などについては、変更はありませんでした。

この資料は、審査会用に作成したものです。審議の過程で変更される可能性があるため、取り扱いにご注意願います。

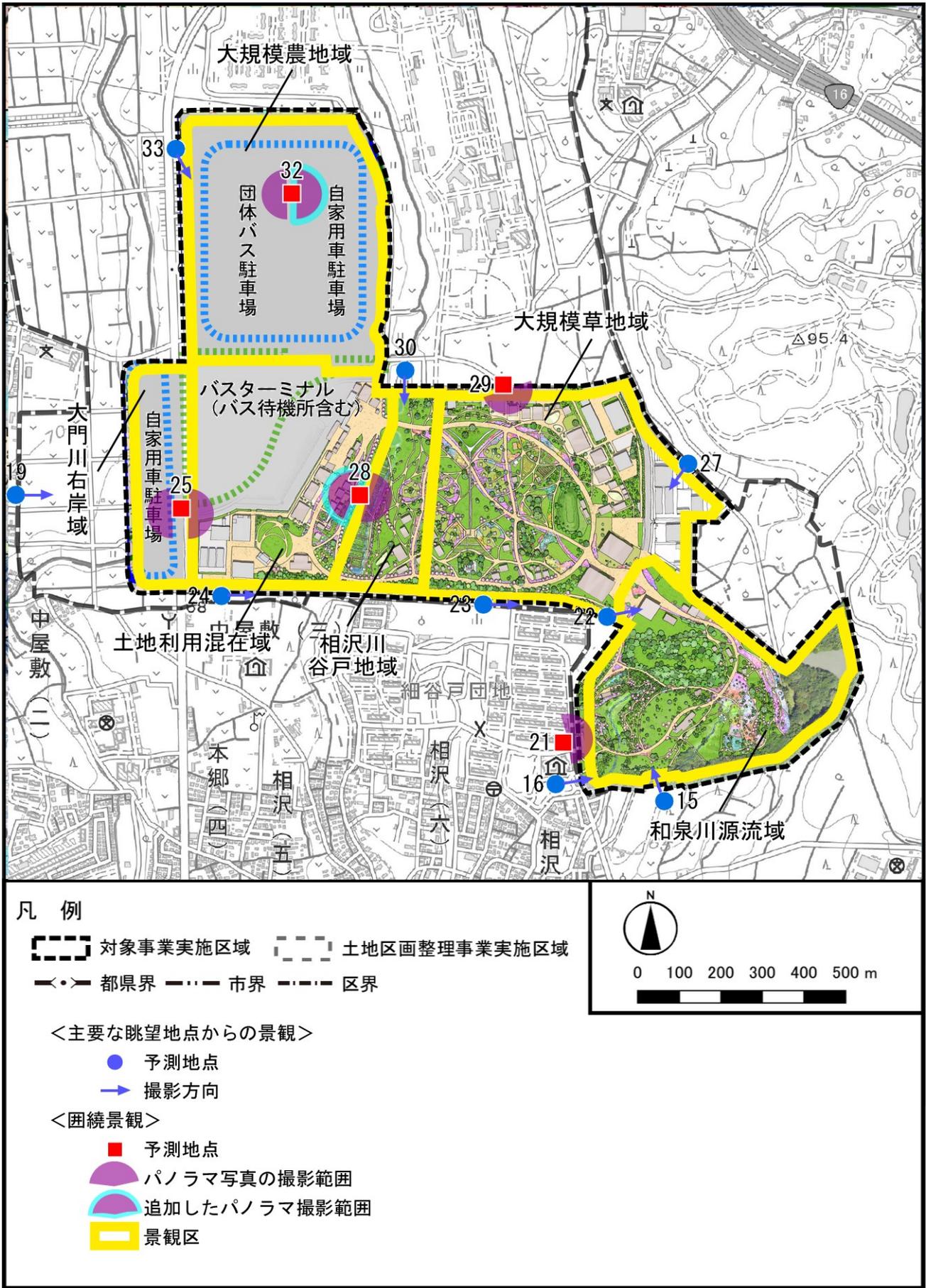


図10-1 予測地点（景観区と計画図）



[現況]



[整備前]

- ※ 整備前は本博覧会が工事着手直前の状態を示しています。
- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。



[開催中]

- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。

図10-2(1) 囲繞景観の追加予測 (No. 28西側)



[現況]



[整備前]

- ※ 整備前は本博覧会が工事着手直前の状態を示しています。
- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。



[開催中]

- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。

図 10-2 (2) No. 28 東側 (相沢川谷戸地域) 【参考】



[現況]



[整備前]

- ※ 整備前は本博覧会が工事着手直前の状態を示しています。
- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。



[開催中]

- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。

図10-2(3) 困繞景観の追加予測 (No. 32東側)



[現況]



[整備前]

- ※ 整備前は本博覧会が工事着手直前の状態を示しています。
- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。



[開催中]

- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。

図 10-2(4) No. 32 西側 (大規模農地域) 【参考】

11 囲繞景観の予測評価について

ご意見の趣旨

囲繞景観の指標例の中で、どれを重視し、どのように組み合わせて評価したのかを示してほしい。利用性については、本来であれば自然的な景観とそれに関わる人の活動で捉えると思うが、博覧会の場合は観光的な利用が中心になるので、利用者数や属性などではなく、利用のアクセス性の観点から評価してほしい。

事業者の見解

本博覧会の準備書では、横浜市の公園整備事業と比較できるよう、公園整備事業の準備書で用いていた指標例を活用して評価しましたが、ご指摘を踏まえ、囲繞景観における代表的な指標例について、本博覧会に整合するよう、表11-1(1)のとおり修正しました。あわせて、修正した指標例について、評価の考え方を整理し、その考え方に基づいて、囲繞景観の予測評価を表11-2(1)～(6)及び表11-3のとおり修正しました。

この資料は、審査会用に作成したものです。審議の過程で変更される可能性があるため、取り扱いにご注意願います。

表 11-1(1) 価値認識の対象と代表的な指標例 [修正後]

価値の分類	認識項目	代表的な指標 (例)
普遍価値	自然性	植生自然度、 <u>緑化の状況</u> 、大径木の存在、 <u>生物の生息・生育環境</u> 等
	視認性	見られやすさ (被視頻度) 等
	利用性	利用者数、利用のしやすさ (<u>利用者のアクセス性</u>) 等
固有価値	固有性	他にはない独特の要素の存在 等
	親近性	地域の人々に親しまれている要素の存在 等

準備書から修正した箇所は、太文字・下線で示しています。

表 11-1(2) 価値認識の対象と代表的な指標例 [修正前]

価値の分類	認識項目	代表的な指標 (例)
普遍価値	自然性	植生自然度、緑被率、大径木の存在、水際線の形態、河川の流路の形状、水の清浄さ 等
	視認性	見られやすさ (被視頻度) 等
	利用性	利用者数、利用のしやすさ、利用者の属性の幅 等
固有価値	固有性	地名とかかわりの深い要素の存在 他にはない独特の要素の存在 等
	親近性	地域の人々に親しまれている要素の存在 等

この資料は、審査会用に作成したものです。審議の過程で変更される可能性があるため、取り扱いにご注意願います。

【評価の考え方】

自然性	◎	自然性が十分に残されている、十分な緑化ができています、十分な大径木が存在している、生物が生息・生育できる環境が十分に確保されている
	○	自然性が一定程度は残されている、一定程度は緑化ができています、大径木が存在している、生物が生息・生育できる環境が一定程度は確保されている
	△	自然性が残されているとはいえない、緑化できていない、大径木は存在していない、生物が生息・生育できる環境が確保されていない

視認性	◎	地域の主要な景観構成要素を明瞭に視認することができる
	○	地域の主要な景観構成要素を一定程度は視認することができる
	△	地域の主要な景観構成要素を視認することができない

利用性	◎	多くの人々が利用している、法令等による制限がなく、誰でも自由に利用できる
	○	利用している人がいる、許可・承諾が得られれば、誰でも利用することができる
	△	人の利用がない、法令等によって制限され、利用ができない

固有性	◎	他にはない独特の要素が存在している
	○	独特の要素が存在している
	△	独特の要素は存在しない

親近性	◎	地域の人々に親しまれる要素が十分に存在している
	○	地域の人々に親しまれる要素が一定程度は存在している
	△	地域の人々に親しまれる要素は存在しない

この資料は、審査会用に作成したものです。審議の過程で変更される可能性があるため、取り扱いにご注意願います。

表 11-2(1) 景観区ごとの価値の変化の程度（大門川右岸域）

価値軸	認識項目	価値の変化 ^{注1}	価値の変化の状況
普遍価値	自然性	△→△	本博覧会の整備前は、造成地の状態であり、自然性は低いと予測します。 開催中は、アスファルト等で舗装された駐車場等となり、場内はプランターなどで緑化しますが、開催後には撤去することから、普遍価値とは評価できないため、低いと予測します。
	視認性	○→△	本博覧会の整備前は、土地区画整理事業の造成用地であり、平坦な地形で視界を遮る構造物等がないことから、整備中の環状4号線の桜並木や、西側には遠景として大山や丹沢山地が明瞭に視認することができます。なお、西側の大門川は土地区画整理事業による造成で暗渠化されています。整備前の視認性は中程度であると予測します。 開催中は、整備が完了した環状4号線の桜並木が明瞭に視認できます。また、本博覧会の駐車場が整備され、調査地点においては、仮設のフェンスや植栽に遮られ、大山や丹沢山地の視認性は部分的に低下すると予測します。
	利用性	△→○	本博覧会の整備前は、立ち入りが制限された土地区画整理事業の造成地であり、一般の利用はできないため、利用性は低いと予測します。 開催中は、駐車場利用者が多数訪れ、入場券を取得することで誰でも利用ができるようになることから、利用性は向上して中程度になると予測します。
固有価値	固有性	△→△	本博覧会の整備前の造成地の状態から、開催中は駐車場等となりますが、他にはない独特の要素は存在しないことから、固有性は低いと予測します。
	親近性	△→○	本博覧会の整備前は、造成地の状態であり、地域の人々に親しまれる要素はないことから、親近性は低いと予測します。 開催中は、駐車場等となりますが、場内は四季を彩る花木によって緑化され、地域の人々に親しまれる要素になることから、親近性は向上すると予測します。

注1：価値の変化は、整備前→開催中の順に示しています。

また、マークの意味は次のとおりです。 ◎：高い、○：中程度、△：低い

準備書から修正した箇所は、太文字・下線で示しています。



[現況]



[整備前]

- ※ 整備前は本博覧会が工事着手直前の状態を示しています。
- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。



[開催中]

- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。

図 11-2(1) No. 25 [西方向] (大門川右岸域)

表 11-2(2) 景観区ごとの価値の変化の程度（土地利用混在域）

価値軸	認識項目	価値の変化 ^{注1}	価値の変化の状況
普遍価値	自然性	△→△	本博覧会の整備前は、公園整備による植栽等を除き造成地の状態であり、自然性は低いと予測します。 開催中は、アスファルト等で舗装されたバスターミナルや会場区域の一部として整備し、プランターや植栽などで緑化しますが、その多くは開催後には撤去することから、普遍価値とは評価できないため、低いと予測します。
	視認性	○→△	本博覧会の整備前は、比較的平坦な地形であり、整備中の環状4号線の桜並木は視認できますが、東側の瀬谷市民の森は公園整備事業の高木植栽等によって視認できません。整備前の視認性は中程度であると予測します。 開催中は、本博覧会のバスターミナルや会場の一部となっていますが、フェンスや植栽が整備されることから、環状4号線の桜並木は視認できません。開催中の視認性は低くなると予測します。
	利用性	△→◎	本博覧会の整備前は、立ち入りが制限された造成地であり、一般の利用はできないため、利用性は低いと予測します。 開催中は、来場者やシャトルバスの利用者が多数訪れます。バスターミナルは誰でも自由に利用できるようになり、会場区域は入場券を取得することで誰でも利用ができるようになることから、利用性は高くなると予測します。
固有価値	固有性	△→◎	本博覧会の整備前は、造成地の状態であり、他にはない独特の要素は存在しないことから、固有性は低いと予測します。 開催中はバスターミナルや会場区域として整備され、本博覧会のメインゲート・建築物等が整備されるなど、他にはない独特の要素となることから、固有性は高くなると予測します。
	親近性	△→◎	本博覧会の整備前は、造成地の状態であり、地域の人々に親しまれる要素はないことから、親近性は低いと予測します。 開催中は、周辺環境との調和に配慮したメインゲート・建築物や四季を彩る植栽が整備され、地域の人々に親しまれる要素となることから、親近性は向上すると予測します。

注1：価値の変化は、整備前→開催中の順に示しています。

また、マークの意味は次のとおりです。 ◎：高い、○：中程度、△：低い
準備書から修正した箇所は、太文字・下線で示しています。



[現況]



[整備前]

- ※ 整備前は本博覧会が工事着手直前の状態を示しています。
- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。



[開催中]

- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。

図 11-2 (2) No. 25 [東方向] (土地利用混在域)



[現況]



[整備前]

- ※ 整備前は本博覧会が工事着手直前の状態を示しています。
- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。



[開催中]

- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。

図 11-2(3) No. 28[西方向] (土地利用混在域)

表 11-2(3) 景観区ごとの価値の変化の程度（相沢川谷戸地域）

価値軸	認識項目	価値の変化 ^{注1}	価値の変化の状況
普遍価値	自然性	◎→◎	<p>本博覧会の整備前は、横浜市により、現況の谷戸地形をいかした保全対象種の生息・生育環境が創出されていますが、その他の区域は、公園整備事業による植栽等を除き造成地の状態となっています。生物が生息・生育できる環境は確保されており、自然性は高いと予測します。</p> <p>開催中は、横浜市が創出した保全対象種の生息・生育環境を保全・活用することから、生物が生息・生育できる環境は十分に確保されており、新たな植栽や庭園等を整備し、十分に緑化することから、自然性は高くなると予測します。</p>
	視認性	◎→◎	<p>本博覧会の整備前は、谷戸地形を生かした保全対象種の生息・生育環境が創出され、予測地点の近くには視界を大きく遮る構造物がないことから、視認性は高いと予測します。</p> <p>開催中は、保全対象種の生息・生育環境を保全するため、フェンス等の立ち入り防止柵が整備されますが、予測地点の近くには視界を大きく遮る構造物がないことから、視認性に変化はなく、高いと予測します。</p>
	利用性	△→○	<p>本博覧会の整備前は、立ち入りが制限された造成地であり、一般の利用はできないため、利用性は低いと予測します。</p> <p>開催中は、来場者が多数訪れ、会場区域は入場券を取得することで誰でも利用ができるようになることから、利用性は向上して中程度になると予測します。</p>
固有価値	固有性	◎→◎	<p>本博覧会の整備前は、谷戸地形を生かした保全対象種の生息・生育環境が創出され、他にはない独特の要素が存在することから、固有性は高いと予測します。</p> <p>開催中は、谷戸地形を生かした保全対象種の生息・生育環境に加え、会場区域として新たな植栽や庭園等を整備するため、他にはない独特の要素となることから、固有性はさらに高くなると予測します。</p>
	親近性	△→◎	<p>本博覧会の整備前は、谷戸地形を生かした保全対象種の生息・生育環境が創出されますが、立ち入りが制限された造成地であるため、地域の人々に親しまれる要素にはならないことから、親近性は低いと予測します。</p> <p>開催中は、谷戸地形を生かした保全対象種の生息・生育環境、周辺環境との調和に配慮した建築物、四季を彩る植栽などが整備され、地域の人々に親しまれる要素となることから、親近性は大きく向上し、高くなると予測します。</p>

注1：価値の変化は、整備前→開催中の順に示しています。

また、マークの意味は次のとおりです。 ◎：高い、○：中程度、△：低い
準備書から修正した箇所は、太文字・下線で示しています。



[現況]



[整備前]

- ※ 整備前は本博覧会が工事着手直前の状態を示しています。
- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。



[開催中]

- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。

図 11-2(4) No. 28[東方向] (相沢川谷戸地域)

この資料は、審査会用に作成したものです。審議の過程で変更される可能性があるため、取り扱いにご注意願います。

表 11-2(4) 景観区ごとの価値の変化の程度（大規模草地域）

価値軸	認識項目	価値の変化 ^{注1}	価値の変化の状況
普遍価値	自然性	○→◎	<p>本博覧会の整備前は、既存の大径木や草地環境の一部が保全され、外周部には公園整備による植栽等が整備されていますが、その他の区域は造成地の状態です。自然性や生物が生息・生育できる環境は一定程度確保され、一定程度の緑化は行われていますが、自然性は中程度であると予測します。</p> <p>開催中は、既存の大径木や草地環境の一部が保全・活用され、周辺環境との調和に配慮した建築物、四季を彩る植栽などが整備されます。自然性や生物が生息・生育できる環境は一定程度確保されており、新たな植栽や庭園等を整備することで十分に緑化できることから、自然性は高くなると予測します。</p>
	視認性	△→△	<p>本博覧会の整備前は、既存の大径木が保全され、外周部には公園整備による植栽等が整備されていることから、予測地点の近くは視認性が低いと予測します。</p> <p>開催中は、仮設の建築物や外周部にフェンス等の立ち入り防止柵が整備されますが、視認性に変化はなく、低いと予測します。</p>
	利用性	△→○	<p>本博覧会の整備前は、立ち入りが制限された造成地であり、一般の利用はできないため、利用性は低いと予測します。</p> <p>開催中は、来場者が多数訪れ、会場区域は入場券を取得することで誰でも利用ができるようになることから、利用性は向上して中程度になると予測します。</p>
固有価値	固有性	○→◎	<p>本博覧会の整備前は、造成地の状態ですが、既存の大径木や草地環境の一部が保全され、外周部には公園整備による植栽等が整備されています。これらの独特の要素が存在することから、固有性は中程度であると予測します。</p> <p>開催中は、既存の大径木や草地環境の一部が保全され、会場区域として新たな植栽や庭園等を整備するため、他にはない独特の要素となることから、固有性は高くなると予測します。</p>
	親近性	△→◎	<p>本博覧会の整備前は、既存の大径木や草地環境の一部が保全されますが、立ち入りが制限された造成地であるため、地域の人々に親しまれる要素にはならないことから、親近性は低いと予測します。</p> <p>開催中は、既存の大径木や草地環境の一部が保全・活用され、周辺環境との調和に配慮した建築物、四季を彩る植栽などが整備されます。これらは地域の人々に親しまれる要素となることから、親近性は大きく向上し、高くなると予測します。</p>

注1：価値の変化は、整備前→開催中の順に示しています。

また、マークの意味は次のとおりです。 ◎：高い、○：中程度、△：低い
準備書から修正した箇所は、太文字・下線で示しています。



[現況]



[整備前]

※ 整備前は本博覧会が工事着手直前の状態を示しています。
※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。



[開催中]

※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。

図 11-2(5) No. 29 (大規模草地域)

表 11-2(5) 景観区ごとの価値の変化の程度（和泉川源流域）

価値軸	認識項目	価値の変化 ^{注1}	価値の変化の状況
普遍価値	自然性	◎→◎	<p>本博覧会の整備前は、横浜市によって瀬谷市民の森に隣接する既存樹林が保全されるとともに、動植物の生息・生育環境の創出に寄与する地上式調整池（調整池4）が創出されます。その他の区域は、公園整備事業による植栽等を除き造成地の状態となっています。地域の自然性は一定程度残され、生物が生息・生育できる環境は十分に確保されることから、自然性は高いと予測します。</p> <p>開催中は、既存樹林や地上式調整池を保全・活用するとともに、新たな植栽や庭園等を整備して十分に緑化することから、整備前と同様に自然性は高いと予測します。</p>
	視認性	△→△	<p>本博覧会の整備前は、横浜市によって既存樹林が保全され、外周部には公園整備による高木の植栽等が整備されていることから、予測地点の近くは視認性が低いと予測します。</p> <p>開催中は、仮設の建築物や外周部にフェンス等の立ち入り防止柵が整備されますが、視認性に変化はなく、低いと予測します。</p>
	利用性	△→○	<p>本博覧会の整備前は、立ち入りが制限された造成地であり、一般の利用はできないため、利用性は低いと予測します。</p> <p>開催中は、来場者が多数訪れ、会場区域は入場券を取得することで誰でも利用ができるようになることから、利用性は向上して中程度になると予測します。</p>
固有価値	固有性	◎→◎	<p>本博覧会の整備前は、動植物の生息・生育環境の創出に寄与する地上式調整池（調整池4）が創出され、他にはない独特の要素が存在することから、固有性は高いと予測します。</p> <p>開催中は、地上式調整池（調整池4）に加え、会場区域として新たな植栽や庭園等を整備するため、他にはない独特の要素となることから、固有性はさらに高くなると予測します。</p>
	親近性	○→◎	<p>本博覧会の整備前は、造成地の状態ですが、地域の人々に親しまれている既存樹林は保全されるため、親近性は中程度であると予測します。なお、動植物の生息・生育環境の創出に寄与する地上式調整池（調整池4）が創出されますが、立ち入りが制限された造成地であるため、地域の人々に親しまれる要素にはならないと予測します。</p> <p>開催中は、既存樹林や地上式調整池（調整池4）に加え、周辺環境との調和に配慮した建築物、四季を彩る植栽などが整備され、地域の人々に親しまれる要素となることから、親近性は大きく向上し、高くなると予測します。</p>

注1：価値の変化は、整備前→開催中の順に示しています。

また、マークの意味は次のとおりです。 ◎：高い、○：中程度、△：低い

準備書から修正した箇所は、太文字・下線で示しています。



[現況]



[整備前]

※ 整備前は本博覧会が工事着手直前の状態を示しています。

※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。



[開催中]

※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。

図11-2(6) No. 21 (和泉川源流域)

この資料は、審査会用に作成したものです。審議の過程で変更される可能性があるため、取り扱いにご注意願います。

表 11-2(6) 景観区ごとの価値の変化の程度（大規模農地域）

価値軸	認識項目	価値の変化 ^{注1}	価値の変化の状況
普遍価値	自然性	△→△	本博覧会の整備前は、一部の既存樹木は残されていますが、土地区画整理事業による造成地の状態であり、自然性は低いと予測します。 開催中は、アスファルト等で舗装された駐車場として整備し、プランターや植栽などで緑化しますが、開催後には撤去することから、普遍価値とは評価できないため、低いと予測します。
	視認性	◎→◎	本博覧会の整備前は、土地区画整理事業の造成地であり、平坦な地形で視界を遮る構造物等がないことから、整備中の環状4号線の桜並木や、西側には遠景として大山や丹沢山地が明瞭に視認することができ、整備前の視認性は高いと予測します。 開催中は、本博覧会の駐車場が整備され、周囲にフェンスが設置されますが面積は広大であり、整備が完了した環状4号線の桜並木及び、大山や丹沢山地の見え方には大きな変化はなく、視認性は高いと予測します。
	利用性	△→○	本博覧会の整備前は、立ち入りが制限された土地区画整理事業の造成地であり、一般の利用はできないため、利用性は低いと予測します。 開催中は、駐車場利用者が多数訪れ、入場券を取得することで誰でも利用ができるようになることから、利用性は向上して中程度になると予測します。
固有価値	固有性	△→△	本博覧会の整備前の造成地の状態から、開催中は駐車場等となりますが、他にはない独特の要素は存在しないことから、固有性は低いと予測します。
	親近性	△→○	本博覧会の整備前は、造成地の状態であり、地域の人々に親しまれる要素はないことから、親近性は低いと予測します。 開催中は、駐車場等となりますが、場内は四季を彩る花木によって緑化され、地域の人々に親しまれる要素になることから、親近性は向上すると予測します。

注1：価値の変化は、整備前→開催中の順に示しています。

また、マークの意味は次のとおりです。 ◎：高い、○：中程度、△：低い

準備書から修正した箇所は、太文字・下線で示しています。



[現況]



[整備前]

- ※ 整備前は本博覧会が工事着手直前の状態を示しています。
- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。



[開催中]

- ※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。

図11-2(7) No. 32[西方向] (大規模農地域)



[現況]



[整備前]

※ 整備前は本博覧会が工事着手直前の状態を示しています。
※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。



[開催中]

※ 周辺道路や街路樹など、横浜市が整備する施設については、本博覧会協会が独自に既存資料等をもとに想定して作成したものです。

図11-2(8) No. 32[東方向] (大規模農地域)

表 11-3 6.11.5 評価（4） 圍繞景観の変化

（4） 圍繞景観の変化

場の状態及び眺めの状態は、横浜市の土地区画整理事業による土地改変等が実施され、公園整備事業による樹木や園路等のみが整備された造成地の状態から、本博覧会による施設や駐車場等の整備が行われるため、新たな景観形成が図られます。本博覧会では、横浜市により保全される地形や樹林地等をいかにしながら、必要な施設の整備を行うことで、地域景観の特性の変化を最小限に留めます。また、瀬谷市民の森等と隣接する東側の地区は、横浜市がそれらの樹林地との連続性に配慮した樹林地の保全や緑地の創出を行うことから、森林地域や住宅地が広がる周辺環境との調和に配慮した景観形成が図られると予測します。

本博覧会の開催中の利用の状態については、多くの来場者や関係者が会場施設、庭園、駐車場等の施設を利用すると予測します。なお、博覧会で植栽する樹木は、公園整備事業と同様に、可能限り落葉樹と常緑樹を混植するなど、既存の植生を踏まえたものとしします。

圍繞景観の価値は、自然性は、大門川右岸域、土地利用混在域、大規模農地域では、造成地の状態から駐車場やバスターミナルとなり、整備前の低い状態から大きな変化はないと予測します。相沢川谷戸地域、和泉川源流域では、地形を生かした保全対象種の生育・生息環境等が整備されており、開催中は博覧会の新たな整備が加わりますが、整備前からの高い状態から大きな変化はないと予測します。大規模草地域では、横浜市により保全される地形や樹林地をいかにしながら、庭園整備や植栽等を行うため、向上すると予測します。

視認性は、相沢川谷戸地域、大規模農地域では、予測地点の近くには視界を遮る施設はないことから、整備前の高い状態から大きな変化はないと予測します。大規模草地域、和泉川源流域では、仮設の建築物やフェンスが整備されますが、視認性に大きな変化はなく低いと予測します。大門川右岸域、土地利用混在域では、フェンスや植栽が整備されることから、低くなると予測します。

利用性は、全地域で、整備前の立ち入りが制限された状態から、開催中は駐車場やバスターミナル、会場区域となることから向上すると予測します。土地利用混在域では、バスターミナルは誰でも自由に立ち入ることができたため、向上して高い状態になると予測します。

固有性は、大門川右岸域、大規模農地域では、整備前の低い状態から大きな変化はないと予測します。相沢川谷戸地域、和泉川源流域では、地形を生かした保全対象種の生育・生息環境等が整備されており、開催中は博覧会の新たな整備が加わりますが、整備前の高い状態から大きな変化はないと予測します。土地利用混在域、大規模草地域では、整備前の造成地の状況から、横浜市により保全される地形や樹林地等をいかにするとともに、庭園整備や植栽等を行うため、他にはない独特の要素となることから、向上して高い状態になると予測します。

親近性は、全地域で、整備前の立ち入りが制限された状態から、周辺環境との調和に配慮した建築物等や四季を彩る植栽などが整備され、地域の人々に親しまれる要素となることから、向上して高い状態になると予測します。

さらに、横浜市が整備・保全する桜や植栽等をいかして、周辺の景観特性に調和した会場整備を進めます。会場内の建築物及び工作物の形状、デザイン・色彩等に配慮することで、周辺の眺望景観との調和を図ります。駐車場やバスターミナルにおいては周辺の景観との調和を考慮して、植栽等による修景を行います。横浜市の土地区画整理事業によって動植物の生息・生育環境が整備・創出される範囲及びその周辺においては、生物の生息に配慮した園路の配置及び利用を計画します。

以上のことから、環境保全目標「周辺景観との調和を図り、眺望を著しく阻害しないこと。」を達成するものと評価します。

なお、本博覧会は半年間の開催であり、開催後は建築物、庭園、駐車場などの仮設施設は速やかに撤去し、返還することになります。博覧会開催後は、本博覧会の対象事業実施区域の大半が横浜市の公園となりますが、公園整備事業についても環境影響評価手続きが行われています。

※準備書から修正した箇所は、太文字・下線で示しています。